

*コメントは生徒表現ママ。

・展示室1 「蓮葉に蛙皿」 正阿弥勝義

蛙が枝に登ろうとしている。蛙の動きがとても精密。次の動きを想像することができる。

・展示室1 「花見図花瓶」 錦光山

描かれている人の着ている人の着物。木の枝のしわ？花の模様。それらの線がとても細かい。街道の様子を描いているようにみえた。

小さな花瓶に人が描かれていて、その人それぞれが鮮やかな着物を着て、それぞれの表情をしている。花瓶上部には絵ではないが桜の花が彫られている。たくさんのひとが楽しく花見をする物語が描かれている。

・展示室3 「波濤図」 無銘

糸の光沢を利用して見る角度を変えることで、波が動いているかのように見える。細かい糸を何本も使うことにより水の流れ、水のしぶき、カモメなど絵では表現できないような細部まで表現されている太陽の光の反射も描かれている。

絵を動きながら見ると、波が動いているように見える。色を何百色ぐらいも使い分けているのかと思うぐらい色の濃さや明るさを表現していた。よく見ると布に凸凹があった。

・展示室3 「読書図」 西村總左衛門、千總

明暗によって女性が若々しくも見え、とても老けているようにも見えるような技法が使われていた。

・展示室3 「明治旧金貨幣」 加納夏雄

細かい彫刻の型を作ることで、貨幣として世に同じものがたくさん流れたのは、他の一点物と違って逆に面白かった。今の十円や五円なんかの模様にも少なからず受け継がれている気がした。

・展示室4 「靈芝、蝸牛など」 安藤緑山

かたつむりが本当にリアル。当時の人は本物かどうか一瞬見ただけでは分からないと思う。

・展示室5 「蜂」 富木宗好

よりリアルさを出すために蜂の手足羽を動かせるようにしたんだと思います。尻の先にある針が、かたむけることによって出たり入ったりするのに驚きました。

・展示室5 「法師狸」 高村光雲

狸が人間のように歩き服を着る姿が独創的。だが自分には熊に見える。